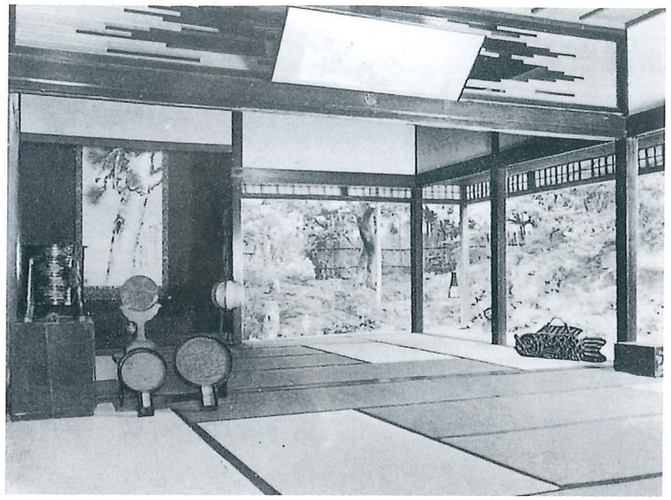
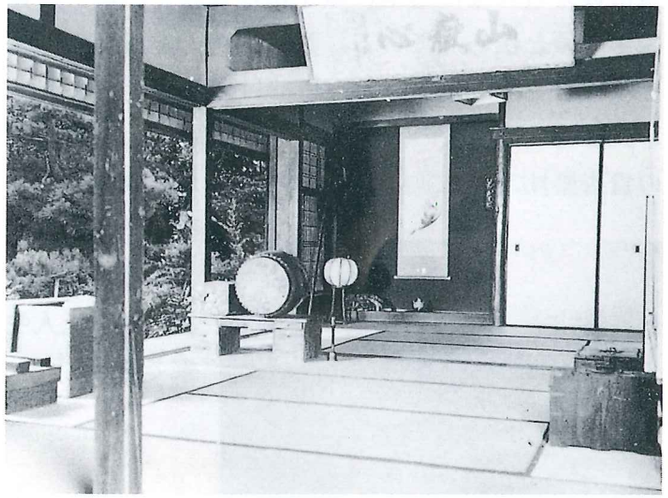


書院の間

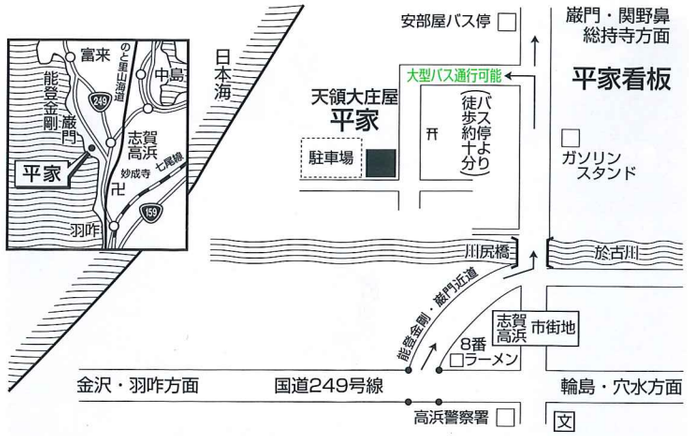


奥座敷

観　覧　料

	金　額
大　　人	500円
高　校　生	300円
中 小 学 生	250円
30人以上の団体の場合1人当り50円引	

お抹茶、ご希望の方はお申しつけください。(300円)



(注) 不定休、観覧時間8:00～17:00、所要時間15分～30分

当家横にバス、乗用車駐車場有り。

天領大庄屋　平　家

石川県羽咋郡志賀町町30－63番地

平　尋　国

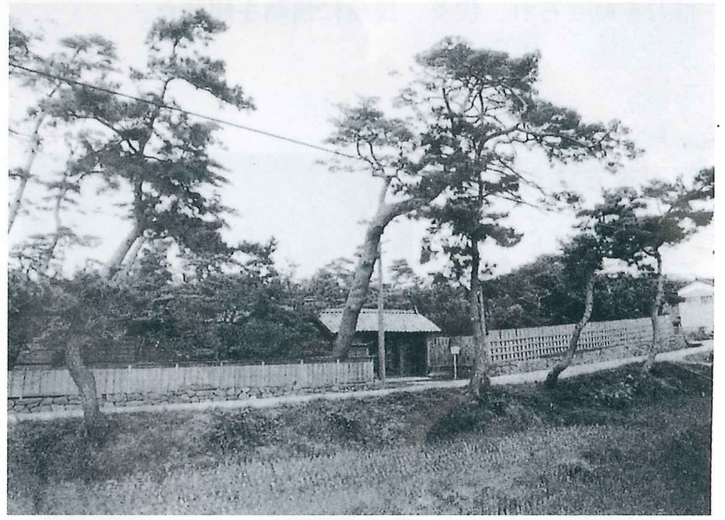
TEL (0767) 32-1404番　FAX (0767) 32-1404番

〒番号 925-0167

能登半島国定公園

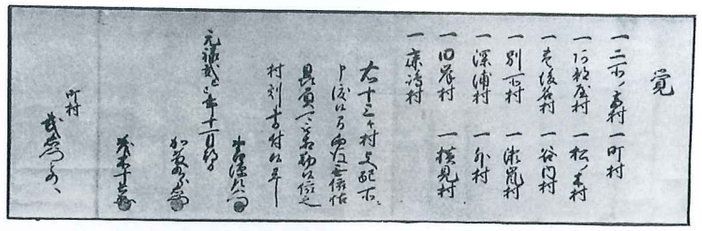
指定名勝

平　家



天領大庄屋・六地蔵石幢

徳川幕府の重臣土方掃部守に依って旧領安堵の一礼を与えられ、以後、天領地十三ヶ村の大庄屋として苗字



帯刀を命ぜられ、代々、民政に情熱を傾けた。

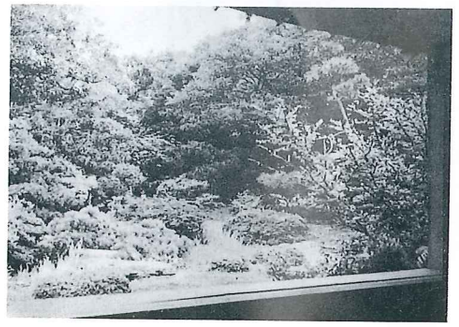
庭園後方に六角形の石幢が立っている。この六角形の各面に一体ずつ地蔵菩薩が陽刻され室町時代の作であり、他に類例のない珍しいものである。尚古文書が多数有り、屋敷総面積は六千坪である。

庭　　園

平家書院の前庭として作られ、池を境に手前と後とで趣が異り手前が江戸中期、心字の池、築山、中心部の枯滝が室町時代の様式を伝える江戸時代前期の名作である。後庭は大正中期に京都修学院離宮の庭師、広瀬万次郎氏が古い庭を大改造して、深山幽谷を想起せられるよう作庭した。

平家由緒

当家の由緒は、遠く源平の時代にさかのぼり、木曽義仲が都へ攻め上がり、これを迎え討つべく平家の嫡男、平維盛が大軍を率いて倶利加羅の山地で激闘したが、遂に大敗して、平維盛の重臣だった平式部太夫が此の地に居を構えたのは今から約八百年前、寿永年間である。そして三百年後の室町期、平氏の落人としてひっそり世をはばかる暮しぶりだったが、能登の国守畠山氏にその由緒と武名をかわれて七尾城に迎えられ後に当地に城を預けられたのが、永禄二年の頃と伝わっている。天正五年、上杉謙信の能登攻めを受けて畠山落城と共に町村の城下も焼亡した。平式部太夫は譜代の家臣十八人と共に奥州津軽(現在の青森県)に逃れていたが元和年間旧地に立ち帰った。



尚、日蓮宗北陸本山妙成寺の開祖、日乗上人生家である。